

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	共生型デイサービス懐		
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		～ 令和7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年3月16日		～ 令和7年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1. 医療的ケアに対応できる環境 看護師を配置し、医療的ケアが必要な利用者にも対応可能 体調管理や緊急時対応ができ、安心・安全な支援を提供	看護師による個別対応；利用者ごとの医療的ケア計画を作成し、必要な処置を適切に実施 緊急対応訓練の実施；急変時に備え、スタッフ間で定期的な緊急時対応研修を行う 保護者との密な連携；医療的ケアが必要な場合は、保護者と随時連絡を取り合い、体調変化に迅速対応	【医療機関との連携強化】 医療機関と連携し、利用者の医療情報共有の仕組みを整備 定期的なケース検討会を実施し、医療的な課題の早期発見・対応 【保護者向け医療相談会】 看護師が個別相談会を実施し、家庭での医療ケアへの不安を軽減
2	2. 専門職による個別リハビリ支援 作業療法士・理学療法士を配置し、個々の発達段階や身体機能に合わせたリハビリを実施 一人ひとりに寄り添ったケアで、生活能力向上を目指す	オーダーメイドの支援計画；作業療法士・理学療法士が利用者の発達状況に合わせた個別プログラムを作成 活動へのリハビリ要素の組み込み；日常活動（遊びやレクリエーション）の中に、自然にリハビリを取り入れる 評価と見直し；定期的に支援計画のモニタリングを行い、必要に応じてアプローチを柔軟に変更	【リハビリプログラムの多様化】 遊び感覚で楽しめるゲーム型リハビリや、日常動作に直結する生活リハビリを充実 【保護者へのリハビリ支援情報提供】 家庭でできる簡単なホームエクササイズを動画・資料で配布し、リハビリの継続性を高める 【リハビリ成果の「見える化」】 定期的な評価をグラフや写真で示し、成長記録を保護者に共有
3	3. 異世代交流による家庭的な雰囲気 介護保険の高齢者や障がい者との交流を通じ、温かく家庭的な環境を提供 世代を超えた関わりが、利用者の社会性向上やコミュニケーション力を育む	交流イベントの開催；高齢者とのレクリエーション（工作、ゲーム、歌など）を定期的実施 役割の提供；高齢者が子どもたちに昔話を語る機会を設け、世代を超えた学び合いを促進 自然な触れ合いの機会創出；日常的に共に過ごす空間を共有し、継続的な交流を促す	【役割共有で交流を活性化】 高齢者が見守り役となり、子どもたちに励ましの言葉をかける場面を増やす 【地域コミュニティとの連携強化】 地域の福祉施設やボランティア団体と連携し、世代間交流を広げる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	リハビリ対象者以外の支援の手薄さ 専門職によるリハビリ対象者が優先され、軽度支援児への働きかけが少ない。	専門職の配置・確保の難しさ 作業療法士・理学療法士の人材確保が困難で、特定の職員に負担が集中 非常勤が多く、支援の継続性や担当変更時の引き継ぎ不足	他職種でもできるリハビリを共有し、「リハビリ補助プログラム」を導入
2	感染症リスク 季節性ウイルス（インフルエンザ、コロナ等）による交流機会の制限	感染症対策の強化により、対面交流が制限されることが多い 交流における事故・体調悪化を防ぐために活動が消極的になりがち	【安全管理の徹底】 体調確認と感染対策を組み込んだ「交流ガイドライン」を整備 交流活動ごとにリスクアセスメントを実施し、未然防止策を明確化
3			